

M04a 次期太陽観測衛星計画「Solar-C Mission」今後の進め方

渡邊鉄哉（国立天文台）、他 Solar-C WG（ISAS/JAXA）、Solar-C 準備室（国立天文台）

「SOLAR-C」計画は、太陽表面から太陽コロナおよび惑星間空間に繋がるプラズマダイナミクスをひとつのシステムとして理解するとともに、宇宙プラズマに普遍的に現れるプラズマ素課程を解明することを基本目的とし、太陽活動が地球と人間社会に与える影響の理解と予測に貢献する。この視点にたち、(I) 彩層・コロナと太陽風の形成機構の解明、(II) 太陽面爆発現象の発現機構の究明、(III) 太陽放射スペクトルの変動機構の解明、の3課題に挑戦する計画である。平成27年2月にISAS/JAXAが募集した平成26年度戦略的中型計画の提案に応募したが、ISAS/JAXAとESAにおける第一段階選考の結果、早期のプロジェクト化は困難な状況にあるとの判断を受け、WG活動を継続して、「Solar-C」計画の科学目的の尖鋭化を最優先の課題として検討することとなった。より実施可能な国際協力体制を構築するため、NASAの協力を得て、Joint Solar-C Science Definition Team (JSSDT) を立ち上げ、2024年2025年頃に想定される太陽活動極大期の観測を想定して、主として中型衛星2号機による衛星打ち上げを目指している。同時に「Solar-C」計画の科学目的を部分的にでも実現できる飛翔実験機会も視野に入れ、その可能性についても検討を進める予定である。